

# シラバス集

マロニエ医療福祉専門学校  
理学療法学科 2年

2025年度

# シラバスの見方

授業科目名	①		実務経験講師	③
担当教員名	②		実務経験	④
開講年度	⑤ 年度	学 期	⑦	
年 次	⑥ 年次	授業回数	⑧ 回	
単 位 数	単 位	単位時間数	時間	
授業科目の概要	⑨			
授業科目の到達目標	⑩			

## 授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用テキスト	⑫
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	
その他 受講生への要望等	

### ① 授業科目名

### ② 担当教員名

担当する主な講師の氏名です。氏名の前の番号は「実務経験（④）」に対応しています。

### ③ 実務経験講師

講師に担当する科目に関する実務経験がある場合、「○」がついています。

実務経験とは・・・資格をもっているだけではなく、実際の施設等で資格を活かして働いた経験があるということ。

※一部を除き、違う学校で同様の科目を教えている等の教員経験は実務経験に含まれません。

### ④実務経験

担当講師の実務経験内容を簡単に記してあります。

### ⑤開講年度

### ⑥年次

授業を受ける学年です。

### ⑦学期

前期・・・4月～9月

後期・・・10月～3月

通年（全期）・・・1年間を通して、もしくは前期～後期にかかるどこかの期間で

### ⑧授業回数

### ⑨授業科目の概要

授業内容の大まかな説明です。

### ⑩授業科目の到達目標

授業が修了した時に到達するべき学修の目標です。

### ⑪授業スケジュールと内容

内容・・・1回の授業がどのような内容で構成されているか

授業方法・・・講義、演習、実習など

課題/小テスト・・・その授業の回に課題や小テストが課されている場合は記載されます。予習の内容が書かれている場合もあります。

### ⑫使用テキスト

授業で使用するテキストの情報です。プリント等オリジナル教材を使用する場合もあります。

## シラバスの使い方

シラバス（授業計画書）は、各授業科目の概要のことです。

あらかじめ学生の皆さんに授業の進め方、学習内容、学習のねらいや評価方法を提示することによって、授業の流れをよく理解してもらい、より計画的に、主体的に、効果的に学習できることを目的に作成したものです。

シラバスを読めば、科目担当教員が皆さんにどのようなことを修得してほしいのか、また、何をどこまで、どのような方法で授業するのかを事前に知ることができます。専門学校での授業は、予習→授業→復習のサイクルを確立することが基本であり、最も大切です。シラバスを有効に活用して、自分に合った学習のパターンや方法を見つけ、学習に取り組んでください。

### 【授業を受ける前に】

1. 科目の到達目標には、その科目を勉強することによって皆さんに身につけてほしい目標が記載されています。この科目で身につけるべきことは何かを確認しましょう。
2. 授業の概要・内容・進め方を確認し、自分が何を学ぶのかイメージした上で、計画を立てて学習に臨みましょう。
3. 各回のキーワードはその授業で覚えてほしい重要なもの（将来的には国家試験にも関連する事柄も含む）として示してあります。各回の授業で自分が理解できたかどうかを振り返る上でのポイントとなります。
4. 使用テキスト・参考書については何を使用するのか事前に確認し、準備しましょう。
5. 「この科目の基礎となる科目」は、この科目を学ぶ上でベースとなる科目です。また、「この科目を基礎とした科目」はこの科目で学んだことを用いて発展させることを目指す科目です。科目同士のつながりを意識しながら、効果的に学びましょう。
6. 「成績評価の方法」にはこの科目の評価に用いる試験や課題などの情報を示してあります。課題レポート・出席状況・小テストなども含まれる科目がありますので、よく確認しましょう。
7. 提出物のある科目については、各学科のルールを確認の上、締め切りを守りましょう。専門職を目指す皆さんには、時間管理や、ルールを守ることも基本的な力として身につけてほしいと考えています。

シラバスの大まかな使い方は以上ですが、わからないことがあれば、遠慮なく教員に聞いてください。

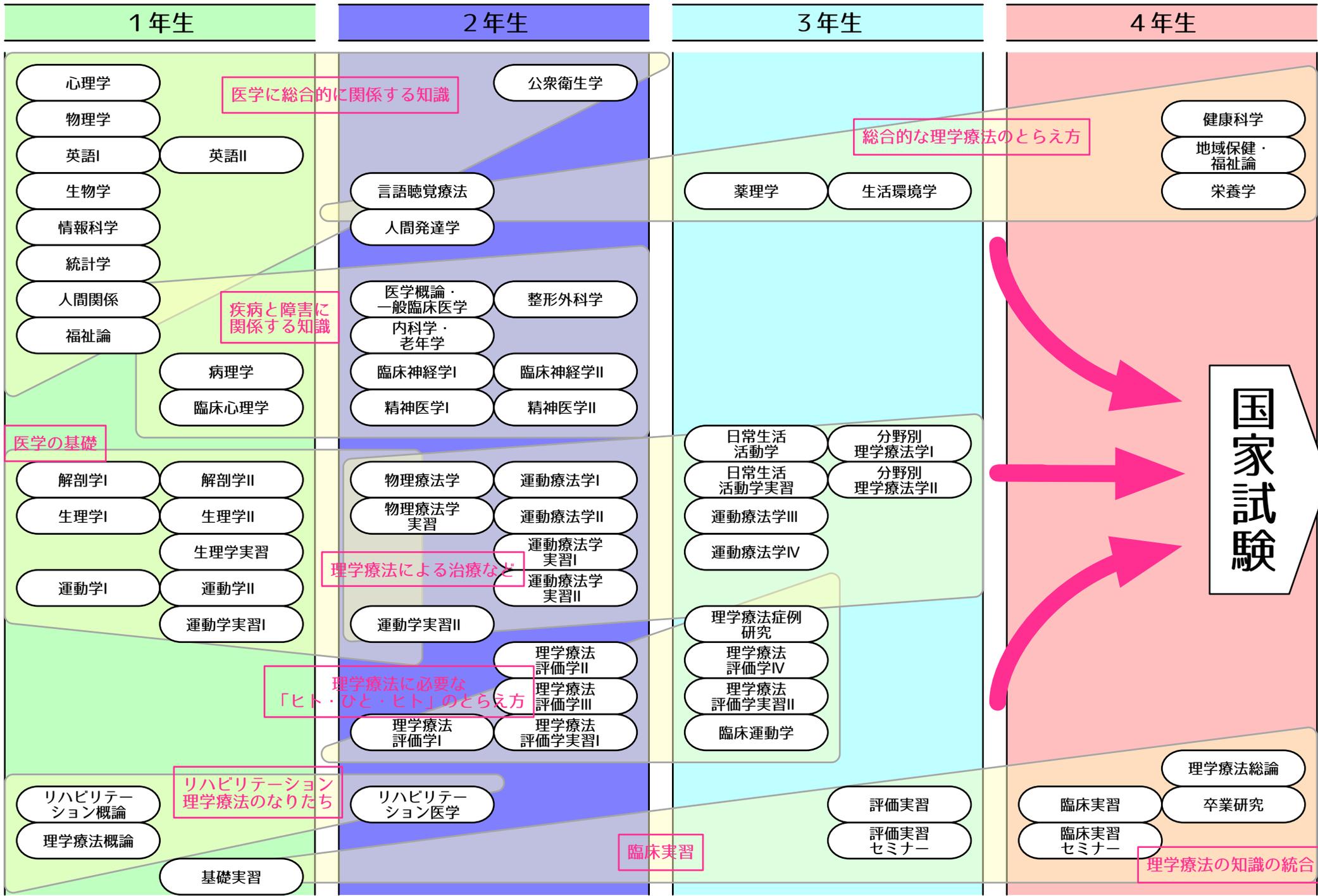
別表 I-4

## 理学療法学科 授業科目一覧

区分	カリキュラム	授業科目名	指定規則	学校指定		一年生				二年生				三年生				四年生			
						前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期	
						単位数	時間	単位数	時間	単位数	時間	単位数	時間	単位数	時間	単位数	時間	単位数	時間	単位数	時間
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	心理学	14	2	30	2	30														
		理学		2	30	2	30														
		健康科学		2	30																
		人間関係		2	30	2	30													2	30
		福祉論		2	30	2	30														
		英語Ⅰ		2	30	2	30														
		英語Ⅱ		2	30			2	30												
		生物		2	30	2	30														
		公衆衛生学		2	30							2	30								
		情報科学		2	30	2	30														
統計学	2	30	2	30																	
基礎分野・小計			14	22	330	16	240	2	30			2	30					2	30		
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	解剖学Ⅰ	12	4	60	4	60														
		解剖学Ⅱ		4	60			4	60												
		生理学Ⅰ		4	60	4	60														
		生理学Ⅱ		4	60			4	60												
		生理学実習		* 1	* 30			* 1	* 30												
		運動学Ⅰ		4	60			4	60												
		運動学Ⅱ		2	30					2	30										
		運動学実習Ⅰ		* 1	* 30			* 1	* 30												
		運動学実習Ⅱ		* 1	* 30					* 1	* 30										
		人間発達学		2	30					2	30										
基礎分野	疾病と障がい の成り立ち及び 回復過程の促進	病理学	12	4	60			4	60												
		臨床心理学		4	60			4	60												
		医学概論・一般臨床医学		4	60					4	60										
		内科学・老年学		4	60					4	60										
		整形外科学		4	60						4	60									
		臨床神経学Ⅰ		4	60					4	60										
		臨床神経学Ⅱ		4	60						4	60									
		精神医学Ⅰ		2	30					2	30										
		精神医学Ⅱ		2	30						2	30									
		保健医療福祉とリハビリテーションの理念		2	30	2	30														
リハビリテーション医学	2	30					2	30													
専門基礎分野・小計			26	63	990	10	150	22	360	21	330	10	150								
専門分野	基礎理学療法学	理学療法概論	35	2	30	2	30														
		臨床運動学		2	30							2	30								
	理学療法症例研究	4		60								4	60								
	理学療法管理学	4		60									4	60							
	理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ		2	30					2	30										
		理学療法評価学Ⅱ		2	30						2	30									
		理学療法評価学Ⅲ		2	30							2	30								
		理学療法評価学Ⅳ		2	30								2	30							
		理学療法評価学実習Ⅰ		* 2	* 60							* 2	* 60								
		理学療法評価学実習Ⅱ		* 1	* 30								* 1	* 30							
	理学療法治療学	運動療法学Ⅰ		2	30							2	30								
		運動療法学Ⅱ		2	30							2	30								
		運動療法学Ⅲ		2	30								2	30							
		運動療法学Ⅳ		2	30								2	30							
		運動療法学実習Ⅰ		* 1	* 30							* 1	* 30								
		運動療法学実習Ⅱ		* 1	* 30							* 1	* 30								
		運動療法学実習Ⅲ		* 2	* 60								* 2	* 60							
		物理療法学		2	30					2	30										
		物理療法学実習		* 1	* 30					* 1	* 30										
		義肢装具学		4	60								4	60							
義肢装具学実習		* 2	* 60								* 2	* 60									
日常生活活動学		4	60								4	60									
日常生活活動学実習	* 1	* 30								* 1	* 30										
地域理学療法学	分野別理学療法学Ⅱ	4	60									4	60								
	生活環境学	2	30									2	30								
	地域保健・福祉論	2	30														2	30			
臨床実習	基礎実習	* 18	* 1	* 45			* 1	* 45													
	評価実習		* 6	* 270								* 6	* 270								
	評価実習セミナー		* 2	* 60									* 2	* 60							
	臨床実習		* 16	* 720											* 16	* 720					
	臨床実習セミナー		* 1	* 30											* 1	* 30					
専門分野・小計			53	83	2,145	2	30	1	45	5	90	12	240	26	480	18	480	17	750	2	30
選択必修		栄養学		2	30														2	30	
		薬理学		2	30							2	30								
		言語聴覚療法		2	30					2	30										
		理学療法総論		8	120															8	120
		卒業業研究		4	60															4	60
選択必修科目・小計			-	18	270					2	30			2	30					14	210
合計			93	186	3,735	28	420	25	435	28	450	24	420	28	510	18	480	17	750	18	270

注1) \* は実習科目の単位(学内実習及び臨床実習)

注2) 講義及び演習の科目については30時間の授業をもって2単位、学内実習科目は30時間の授業をもって1単位、臨床実習科目は45時間の授業をもって1単位とする。



授業科目名	公衆衛生学	実務経験講師	○
担当教員名	小田川 典子	実務経験	保健師
開講年度	2025 年度	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	(1)我が国の公衆衛生の現状と課題について理解する。 (2)これからの公衆衛生のあり方について学ぶ。		
授業科目の到達目標	(1)個人の健康と社会の健康について理解することができる。 (2)ライフサイクルにおける公衆衛生の役割がイメージできる。 (3)公衆衛生活動における理学療法士・作業療法士の役割を考慮することができる。		

### 授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	公衆衛生と健康の概念 1 (Introduction)	講義・GW	
2	公衆衛生と健康の概念 2 (歴史を中心に)	講義・GW	
3	疫学	講義	
4	公衆衛生と健康の概念 3 (保健統計等)	講義	
5	医療と社会 1(関係法規等)	講義・GW	
6	医療と社会 2(医療体制・社会保障と医療経済)	講義	
7	地域保健	講義	
8	保健と福祉 1(成人保健と健康増進)	講義・GW	
9	保健と福祉 2(母子保健と学校保健)	講義	
10	保健と福祉 3(産業保健と環境保健と国際保健)	講義	課題
11	保健と福祉 4(高齢者保健と歯科保健)	講義	
12	保健と福祉 5(栄養と食品保健)	講義	
13	保健と福祉 6(福祉)	講義	課題提出
14	講座のまとめ(公衆衛生における PT.OT の役割を考える)	GW	
15	定期試験	試験	

GW:グループワーク

使用テキスト	「公衆衛生がみえる」2024-2025 医療情報科学研究所 編集 株式会社メディックメディア
参考書・資料 等	国民衛生の動向 新聞等マスメディアの記事
この授業科目の前提となる主な科目	リハビリテーション概論
この授業科目から発展する主な科目	健康科学、地域保健福祉論(PT)・地域作業療法学Ⅱ(OT)
成績評価の方法	定期試験、レポート、出席状況

その他  
受講生への要望等

昨今の自然災害、温暖化等による地球規模の環境変化、感染症パンデミック等、国内外での身近な話題を入り口として、公衆衛生とは何か、その中で理学療法士や作業療法士としての活動や、求められる社会的役割について、皆さんとともに考えてみたいと思っています。新聞、ニュースなどに積極的にアクセスし、広い視野で社会を見ていきましょう。

授業科目名	運動学Ⅱ		実務経験講師
担当教員名	笠木 広志		実務経験
開講年度	2025 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	運動学の基本的概念および身体メカニズムを理解した上で、人間の姿勢制御に関して学ぶ。また、関節運動を力学的に表現できるようになることで、動作・歩行の力学的成り立ちを説明できるようになることを目標とする。		
授業科目の到達目標	① 1 年次に修得した知識をもとに、身体の姿勢と動作・歩行制御について理解する ② 関節運動を力学的に説明できる ③ 運動・動作分析に必要な考え方を身に着ける ④ 異常歩行を理解するための素地を養う ⑤ 動作・歩行に関して、力学的に説明できる		

### 授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	姿勢(重心, 重心の位置, 重心線, 支持基底)	講義	
2	姿勢(足圧中心制御, 身体重心制御, 安定性限界, 分節構造の理解, 安静立位アライメント)	講義・実習	
3	姿勢(重心動揺, 剛体リンクモデル, 抗重力筋, 姿勢変化に伴う筋活動変化)	講義・実習	
4	姿勢制御(静的・動的バランス, フィードバック調節, フィードフォワード調節, ベッドサイドにおけるバランステスト, 各疾患における異常姿勢)	講義	
5	運動・動作の分析(筋収縮様態の復習, フェーズ分けの仕方, 運動分析の仕方, OKCとCKC, end feel, 線画を活用しての分析演習)	講義・演習	
6	運動・動作の分析(線画を活用しての分析演習) 起き上がり動作, 姿勢保持	講義・演習	
7	運動・動作の分析(動画を活用しての分析演習) 肘関節屈曲 90°からの屈伸, 端座位での膝関節屈伸	講義・演習	
8	運動・動作の分析(動画を活用しての分析演習) 背臥位にて肩関節屈伸, 背臥位にて下肢屈伸, 体幹直立位でのハーフスクワット	講義・演習	
9	歩行(歩行の歴史, 歩行周期の理解, 各周期における機能的役割, )	講義・実習	
10	歩行(運動学的分析, 重心移動, 衝撃の緩衝)	講義・実習	
11	歩行(各周期における関節運動の役割, 床反力)	講義・実習	
12	歩行(主要筋群の歩行時における筋活動, 歩行の神経学的制御)	講義・実習	
13	歩行(小児の歩行, 高齢者の歩行, 異常歩行)	講義	
14	後半のまとめ	講義・実習	
15	期末試験	テスト	期末試験

使用テキスト	中村隆一・斉藤宏 著「基礎運動学」医歯薬出版, 配布資料
参考書・資料 等	1) D.P.Green 著 / 嶋田智明 監訳「日常生活活動のキネシオロジー」医歯薬出版 2) K.G.Neumann 原著 / 月城慶一・他 訳「観察による歩行分析」医学書院 3) J.Perry 著 / 武田功・弓岡光徳・他 監訳「ペリー 歩行分析」医歯薬出版 4) 細田多穂・他 編「理学療法ハンドブック 第1巻」協同医書出版 5) 中村隆一 編著「臨床運動学」医歯薬出版
この授業科目の前提となる主な科目	解剖学, 物理学, 運動学 I, 運動学実習 I
この授業科目から発展する主な科目	運動学実習 II, 運動療法学, 臨床動作分析
成績評価の方法	評価時期: 終講時 評価対象及び配分: 期末試験(100%)の結果から評点を決定する.
その他 受講生への要望等	用語の暗記ではなく, 基礎知識をベースとして理解を必要とする講義内容が多い. 理解を促すためにも, 可能な限り演習を取り入れる予定であるが, その都度真剣に取り組むこと. わからなかったことを放置するとその次の内容が理解不能になるので, 放置しないこと.

授業科目名	運動学実習Ⅱ		実務経験講師
担当教員名	笠木 広志		実務経験
開講年度	2025 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	運動学Ⅰで修得した身体運動に関する基礎知識を、姿勢、動作・歩行へ応用する能力を養うことを目的とする。座学だけではなく、実習を通じて理解を深めていく。		
授業科目の到達目標	① 運動学Ⅱで学んだ内容について、実習を通じて理解を深める ② 運動学Ⅰで修得した身体運動に関する基礎知識を、姿勢や動作へ応用する能力を養う ③ 動作場面に於ける関節運動および筋収縮様態を説明できる ④ 基本動作を運動学的・運動力学的視点から説明できる ⑤ 各種疾患・症状別異常動作の特徴を理解し、記述できる		

### 授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	表面筋電計の操作と解釈, オリエンテーション	講義	
2	表面筋電計の操作と解釈	実習	
3	姿勢・動作と筋活動(動画による分析) 座位にて肩関節屈曲位での肘屈伸, 体幹直立位でのハーフスクワット	実習	
4	姿勢・動作と筋活動(動画による分析) 立位から一歩踏み出し, 椅座位からの立ち上がり	実習	
5	姿勢・動作と筋活動(動画による分析) 立ち上がり動作の相分け, バイオメカニクスの解釈	実習	課題 ① 運動分析レポート
6	重心の位置, 重心動揺の測定 測定方法や機器の使用法, 結果の解釈の仕方に関して学ぶ	講義	
7	重心の位置, 重心動揺の測定	実習	
8	重心の位置, 重心動揺の測定	実習	課題 ② 測定結果レポート
9	重心の位置, 重心動揺の測定	実習	
10	重心の位置, 重心動揺の測定	実習	課題 ③ 測定結果レポート
11	正常歩行の観察 運動学的・運動力学的観点から正常歩行に関して学ぶ	講義・実習	
12	正常歩行の観察 分析シートを活用し, 各関節運動の必要性を理解する	実習	
13	異常歩行の観察 運動学的・運動力学的観点から異常歩行に関して学ぶ	講義・実習	
14	異常歩行の観察 障害像を提示し, 結果 生じ得る異常歩行を理解する	実習	課題 ④ 授業内容レポート
15	定期試験	試験	レポート提出

使用テキスト	中村隆一・斉藤宏 著「基礎運動学」医歯薬出版, 配布資料
参考書・資料 等	1) D.P.Green 著 / 嶋田智明 監訳「日常生活活動のキネシオロジー」医歯薬出版 2) K.G.Neumann 原著 / 月城慶一・他 訳「観察による歩行分析」医学書院 3) J.Perry 著 / 武田功・弓岡光徳・他 監訳「ペリー 歩行分析」医歯薬出版 4) 細田多穂・他 編「理学療法ハンドブック 第1巻」協同医書出版 中村隆一 編著「臨床運動学」医歯薬出版
この授業科目の前提となる主な科目	物理学, 運動学 I, 運動学実習 I, 運動学 II
この授業科目から発展する主な科目	運動学 II, 運動療法学, 臨床動作分析
成績評価の方法	評価時期: 終講時 評価対象及び配分: 課題レポートの結果(①・④: 30%, ②・③: 70%)から評点を決定する.
その他 受講生への要望等	この科目は「運動学 II」で得た知識を基に, 測定・分析を実践する授業である。「運動学 II」の進行にあわせ, 原則として 2 限連続して実施する. 日程はその都度掲示する.

授業科目名	人間発達学	実務経験講師	—
担当教員名	メンタルヘルスケアネットワーク	実務経験	—
開講年度	2025 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	心理学の観点から人間の生涯発達過程と発達にかかわる諸問題について学習する。本講義では、様々な発達の基礎理論および、具体的な発達過程を概観し、その知識を臨床現場でどのように活用するか紹介する。		
授業科目の到達目標	生涯発達の観点から、乳児期から高齢期までの発達過程に関する発達心理学の基礎理論を習得すること。発達心理学の基礎理論を、教育、子育て、キャリア等の日常場面のテーマの理解に活用して考えること。		

### 授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	オリエンテーション／発達心理学とは	講義	
2	発達の各理論の紹介	講義	
3	発達研究の紹介	講義	
4	胎児期・新生児期	講義	
5	乳児期	講義	
6	幼児期前期	講義	
7	幼児期後期	講義	
8	児童期	講義	
9	青年期	講義	
10	成人初期・中期	講義	
11	成人後期・老年期	講義	
12	発達を援助する	講義	
13	発達を考える際に	講義	
14	まとめ	講義	
15	定期試験	試験	

使用テキスト	よくわかる発達心理学[第2版] ミネルヴァ書房
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	病理学 生物学 心理学
この授業科目から発展する主な科目	(理学療法学科)理学療法評価学Ⅲ 疾患別理学療法学Ⅰ・Ⅱ (作業療法学科)作業療法専門科目全般
成績評価の方法	出席状況・授業への参加度・試験等を総合して評価する
その他 受講生への要望等	

授業科目名	医学概論・一般臨床医学		実務経験講師	○
担当教員名	①三浦 敦 ①山口 修		実務経験	①医師
開講年度	2025 年度	学 期	前期	
年 次	2 年次	授業回数	30 回	
単 位 数	4 単位	単位時間数	60 時間	
授業科目の概要	リハビリテーション医療に必要な救命救急医療の病態を理解し、その対応を学ぶ。皮膚・産婦人科・耳鼻咽喉科・泌尿器・生殖器・眼疾患について解剖生理・症状病態・検査・診断・治療を学ぶ。また整形外科の基礎となる骨・筋・関節の構造・生理を学ぶ。			
授業科目の到達目標	①一般臨床医学・整形外科学の基礎知識としての習得できる。 ②患者の痛み、苦しみが分かる医療人としての心得を知る。 ③現代医療・福祉・介護の問題点の理解出来る。			

### 授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	山口	1 限:救命救急医療 2 限:救命救急医療	講義	
2	山口	1 限:皮膚疾患 2 限:皮膚疾患	講義	
3	山口	1 限:婦人科・産科疾患 2 限:婦人科・産科疾患	講義	
4	山口	1 限:耳鼻咽喉科疾患 2 限:耳鼻咽喉科疾患	講義	
5	山口	1 限:整形外科基礎 骨の構造、生理、科学 2 限:整形外科基礎 骨の発生、成長、維持	講義	
6	山口	1 限:整形外科基礎 骨の病態、病理 2 限:整形外科基礎 骨の修復と再生	講義	
7	山口	1 限:整形外科基礎 筋・神経の構造、生理、科学 2 限:整形外科基礎 痛みの基礎科学と臨床	講義	
8	三浦	1 限:オリエンテーション 2 限:外科総論	講義	
9	三浦	1 限:泌尿器・生殖器疾患 2 限:泌尿器・生殖器疾患	講義	
10	三浦	1 限:眼疾患 2 限:眼疾患	講義	
11	三浦	1 限:特殊な問題(侷風・骨粗鬆症) 2 限:特殊な問題(侷風・骨粗鬆症)	講義	
12	三浦	1 限:整形外科基礎(関節の構造) 2 限:整形外科基礎(関節の構造)	講義	
13	三浦	1 限:整形外科基礎(関節の病態) 2 限:整形外科基礎(関節の病態)	講義	
14	三浦	1 限:総括 2 限:総括	講義	
15	山口・三浦	定期試験	試験	

使用テキスト	1)PT・OT・STのための一般臨床医学 医歯薬出版 2)標準整形外科学 医学書院
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ, 生理学Ⅰ・Ⅱ, 病理学, 運動学Ⅰ
この授業科目から発展する主な科目	整形外科学, 評価実習, 臨床実習 (理学療法学科)理学療法評価学Ⅰ～Ⅳ, 理学療法評価学実習Ⅰ・Ⅱ, 運動療法学Ⅰ～Ⅳ, 運動療法学実習Ⅰ～Ⅲ, 理学療法総論 (作業療法学科)作業療法評価学に関する全ての科目, 作業療法治療学に関する全ての科目
成績評価の方法	定期試験
その他 受講生への要望等	

授業科目名	内科学・老年学		実務経験講師	○
担当教員名	江口 学		実務経験	医師
開講年度	2025 年度	学 期	前期	
年 次	2 年次	授業回数	30 回	
単 位 数	4 単位	単位時間数	60 時間	
授業科目の概要	内科学一般(ただし神経学を除く)に関する俯瞰的な授業を通して、ヒトの体のしくみと病態に関する基礎的知識を身につけ、理学療法あるいは作業療法を適用する際の対象患者の医学的背景を理解できる素地を養い、他のメディカルワーカーとのコミュニケーションに必要な医学的概念を共通言語として理解できるようにすることを本講の主幹目的としたい。			
授業科目の到達目標	①循環器系における機能の仕組みとその障害について理解し、その治療法を知る。 ②消化器系における機能の仕組みとその障害について理解し、その治療法を知る。 ③代謝・血液疾患の病態を理解できる。 ④呼吸器系の病態生理、呼吸機能障害を知り、治療を理解できる。 ⑤泌尿器系の病態生理、呼吸機能障害を知り、治療を理解できる。 ⑥各疾患における理学療法・作業療法との関連を知ることができる。			

### 授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	1 限:内科総論 2 限:内科総論	講義	
2	1 限:循環器学 2 限:循環器学	講義	
3	1 限:循環器学 2 限:循環器学	講義	
4	1 限:消化器学 2 限:消化器学	講義	
5	1 限:消化器学 2 限:消化器学	講義	
6	1 限:代謝内分泌学 2 限:代謝内分泌学	講義	
7	1 限:代謝内分泌学 2 限:代謝内分泌学	講義	
8	1 限:中毒・物理的要因による疾患 2 限:中毒・物理的要因による疾患	講義	
9	1 限:血液疾患 2 限:血液疾患	講義	
10	1 限:呼吸器学 2 限:呼吸器学	講義	
11	1 限:呼吸器学 2 限:呼吸器学	講義	
12	1 限:アレルギー・感染症・膠原病 2 限:アレルギー・感染症・膠原病	講義	
13	1 限:腎臓・泌尿器学 2 限:腎臓・泌尿器学	講義	

14	1 限:腎臓・泌尿器学 2 限:寄生虫学	講義	
15	定期試験	試験	

使用テキスト	標準理学療法学・作業療法学「内科学」 大成浄志著 医学書院
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ 生理学Ⅰ・Ⅱ 病理学
この授業科目から発展する主な科目	薬理学 (理学療法学科)運動療法学Ⅳ, 理学療法症例研究, 理学療法総論 (作業療法学科)作業療法評価学に関する全ての科目、作業療法治療学に関する全ての科目
成績評価の方法	1)定期試験 2)その他
その他 受講生への要望等	

授業科目名	整形外科学		実務経験講師	○
担当教員名	①三浦 敦 ①山口 修		実務経験	①医師
開講年度	2025 年度	学 期	後期	
年 次	2 年次	授業回数	30 回	
単 位 数	4 単位	単位時間数	60 時間	
授業科目の概要	①整形外科学基礎の習得 ②リハビリテーションとのかかわりの理解			
授業科目の到達目標	①整形外科学の基礎知識を習得することができる。 ②患者の痛み、苦しみが分かる医療人としての心得を理解できる。 ③現代医療・福祉・介護の問題点の理解出来る。			

### 授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	山口	1 限:整形外科学総論 2 限:整形外科学総論	講義	
2	山口	1 限:先天性骨系統疾患 2 限:先天異常症候群	講義	
3	山口	1 限:神経疾患、筋疾患 2 限:ロコモティブシンドローム	講義	
4	山口	1 限:疾患各論 -手関節および手指 1 2 限:疾患各論 -手関節および手指 2	講義	
5	山口	1 限:疾患各論 -胸椎、腰椎 1 2 限:疾患各論 -胸椎、腰椎 2	講義	
6	山口	1 限:外傷総論 2 限:軟部組織損傷	講義	
7	山口	1 限:脊椎・脊髄損傷 2 限:末梢神経損傷	講義	
8	三浦	1 限:整形外科診断総論 2 限:軟部組織・骨・関節の感染症	講義	
9	三浦	1 限:関節リウマチとその類縁疾患 2 限:慢性関節疾患、四肢循環障害と阻血性疾患	講義	
10	三浦	1 限:代謝性骨疾患 2 限:骨腫瘍	講義	
11	三浦	1 限:疾患各論 -肩関節、肘関節疾患 2 限:疾患各論 -軟部腫瘍	講義	
12	三浦	1 限:疾患各論 -頸椎、胸部疾患 2 限:疾患各論 -股関節疾患	講義	
13	三浦	1 限:疾患各論 -膝関節疾患 2 限:疾患各論 -足関節と足趾	講義	
14	三浦	1 限:骨折・脱臼 2 限:スポーツ障害	講義	
15		定期試験	試験	

使用テキスト	1)標準整形外科学 医学書院
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ 生理学Ⅰ・Ⅱ 運動学Ⅰ・Ⅱ 医学概論・一般臨床医学
この授業科目から発展する主な科目	(理学療法学科)疾患別理学療法Ⅰ・Ⅱ 理学療法症例研究 理学療法評価学Ⅱ 理学療法評価学実習Ⅱ 日常生活活動学 (作業療法学科)作業療法評価学に関する全ての科目, 作業療法治療学に関する全ての科目
成績評価の方法	1)定期試験 2)その他
その他 受講生への要望等	

授業科目名	臨床神経学 I	実務経験講師	○
担当教員名	森山俊男	実務経験	医師
開講年度	2025 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	30 回
単 位 数	4 単位	単位時間数	60 時間
授業科目の概要	臨床神経学で扱う神経筋疾患はリハビリテーション医学の重要な対象疾患である。セラピストが良い訓練を行うためには、これらの疾患の論理的な理解が必要である。実際の訓練に携わって役に立つという視点から、臨床神経学、中枢および末梢神経と筋肉疾患全般を臨床神経学 I と II で講義し、これらの機能評価の為の神経学的所見のとり方にも触れる。臨床神経学 I では、これらの習得のために必要な神経機能解剖学、神経生理学の基礎的知識の修得からはじまり、神経学的診断学を修得し、さらに神経疾患の総論を講義する。講義はスライドと小テスト、試問の反復で行われる。		
授業科目の到達目標	①神経筋疾患を理解する上で必要な神経機能解剖・神経生理学の知識を理解できる。 ②神経学的所見、神経学的診断を理解できる。 ③臨床神経学の各種疾患の概説を理解できる ④高次脳機能障害を理解し、リハビリテーションを学ぶ。		

### 授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	1 限:リハビリテーションについて 2 限:ICF	講義	
2	1 限:ADL 評価法 2 限:神経疾患の病歴のとり方 神経機能解剖学	講義	
3	1 限:意識障害の評価 2 限:神経機能解剖学(大脳基底核 脳幹及び脳神経)	講義	
4	1 限:神経機能解剖学(小脳) 2 限:神経機能解剖学(脊髄)	講義	
5	1 限:神経学的局在診断法 錐体路系 変性疾患 2 限:神経学的局在診断法 パーキンソン病	講義	
6	1 限:神経学的局在診断法 感覚系 2 限:神経学的局在診断法 感覚系	講義	
7	1 限:神経学的局在診断法 錐体外路系 2 限:神経学的局在診断法 錐体外路系	講義	
8	1 限:神経学的局在診断法 小脳系 2 限:神経学的局在診断法 小脳系	講義	
9	1 限:神経学的所見のとり方 2 限:脳神経の診断法	講義	
10	1 限:意識障害 2 限:脳死と心臓死	講義	
11	1 限:失語症の診かた 2 限:高次脳機能障害の診かた	講義	
12	1 限:神経病学総論 2 限:臨床神経学の各種疾患の概説	講義	

13	1 限:失行のリハビリテーション 2 限:遂行機能障害	講義	
14	1 限:中枢神経系の感染症 2 限:中枢神経系の感染症	講義	
15	定期試験	試験	

使用テキスト	標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野「神経内科学」 川平和美著 医学書院
参考書・資料 等	1)ベッドサイドの神経の診かた 田崎義昭・他著 南山堂
この授業科目の前提となる主な科目	神経解剖学 一般内科学
この授業科目から発展する主な科目	リハビリテーション医学全般 高齢者医学 地域リハビリテーション学 地域医療介護福祉論 臨床神経心理学
成績評価の方法	1)定期試験の成績 2)通常の講義中の受講態度、必要時行われるワークショップでの参加活動状況 1)、2)の総合評価とする
その他 受講生への要望等	資格取得後も実務の繋がるリハビリテーションの対象疾患を扱った科目なので、プロフェッショナル育成の視点も加味して講義をするので、受講生の積極的な学習姿勢を求める。

授業科目名	臨床神経学Ⅱ		実務経験講師	○
担当教員名	森山俊男		実務経験	医師
開講年度	2025年度	学 期	後期	
年 次	2年次	授業回数	30回	
単 位 数	4単位	単位時間数	60時間	
授業科目の概要	<p>臨床神経学で扱う神経筋疾患はリハビリテーション医学の重要な対象疾患である。セラピストが良い訓練を行うためには、これらの疾患の論理的な理解が必要である。</p> <p>臨床神経学Ⅱでは、実際の臨床で直面する疾患についての実際の訓練に携わって役に立つという点から中枢および末梢神経と筋疾患全般についての各論を講義する。</p> <p>少子化高齢社会へ向けての社会医学的なニーズ、地域包括ケアシステムでの脳卒中や運動器疾患のリハビリテーションの現状について触れる。</p>			
授業科目の到達目標	<p>①神経筋疾患を理解する上で必要な神経機能解剖・神経生理学の知識を理解できる。</p> <p>②脳血管障害の診かた、リハビリテーションを理解できる。</p> <p>③パーキンソン病とその類似疾患を学びリハビリテーションを理解できる。</p> <p>④変性疾患、脱髄疾患、筋疾患の概要を理解できる。</p> <p>⑤嚥下のメカニズムを理解し、リハビリテーションを理解できる。</p>			

### 授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	1 限:脳血管障害(脳血管の解剖) 2 限:脳血管障害(検査法、緊急時対応、合併症、後遺症)	講義	
2	1 限:脳血管障害各論 脳梗塞 2 限:脳血管障害各論 脳梗塞のリハビリ	講義	
3	1 限:脳血管障害各論 脳出血 2 限:脳血管障害各論 くも膜下出血	講義	
4	1 限:脳血管障害各論 2 限:脳血管障害各論 脳血管障害その他	講義	
5	1 限:脳血管障害各論 意識障害の診かた 2 限:脳血管障害各論 脳卒中の診かた	講義	
6	1 限:脳血管障害各論 脳卒中のリハビリ 2 限:パーキンソン病	講義	
7	1 限:パーキンソン病 2 限:パーキンソン病と類似疾患	講義	
8	1 限:変性疾患 SCD、MSA 2 限:運動ニューロン疾患	講義	
9	1 限:ALS のリハビリ 2 限:ALS の在宅医療	講義	
10	1 限:脱髄疾患 2 限:筋疾患	講義	
11	1 限:多発性筋炎 2 限:廃用症候群	講義	
12	1 限:高齢者の廃用症候群 2 限:肺炎と嚥下障害	講義	

13	1 限:メディカルニューロロジー 2 限:メディカルニューロロジー(嚥下)	講義	
14	1 限:嚥下のリハビリ 2 限:排尿障害、フレイル	講義	
15	定期試験	試験	

使用テキスト	標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野「神経内科学」 川平和美著 医学書院
参考書・資料 等	1)ベッドサイドの神経の診かた 田崎義昭・他著 南山堂
この授業科目の前提となる主な科目	神経解剖学 一般内科学
この授業科目から発展する主な科目	リハビリテーション医学全般 高齢者医学 地域リハビリテーション学 地域医療介護福祉論 臨床神経心理学
成績評価の方法	1)期末試験の成績
その他 受講生への要望等	

授業科目名	精神医学 I		実務経験講師	○
担当教員名	古郡規雄・他		実務経験	医師
開講年度	2025年度	学 期	前期	
年 次	2年次	授 業 回 数	15回	
単 位 数	2単位	単位時間数	30時間	
授業科目の概要	人間の精神機能および中枢機能の失調、障害について発生機序、症状などを学習し、さらにその診断方法、治療方法を学ぶ。それに加えて、治療者、患者、家族関係のみならず社会対策など多面的な対応を学ぶ。この科目では臨床でよくみられる精神症状と状態像、精神科に必要な脳・神経症状の知識、症状性および器質性精神障害、認知症性疾患、精神作用物質による精神と行動の障害、ゲーザ障害、てんかんについて学ぶ。			
授業科目の到達目標	①精神障害についてその発生機序や症状などを理解できる。 ②精神障害についてその診断方法、治療法を理解できる。 ③治療者、患者、家族関係や社会的対策など、多面的な対応方法を理解できる。			

### 授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	精神医学とは：正常と異常	講義	
2	よくみられる精神症状と状態像：意識・知能・性格の障害	講義	
3	よくみられる精神症状と状態像：知覚・思考・感情の障害	講義	
4	よくみられる精神症状と状態像：記憶・意欲・行動・自我意識の異常	講義	
5	精神科に必要な脳・神経症状の知識	講義	
6	症状性および器質性精神障害	講義	
7	認知症性疾患1(アルツハイマー型認知症)	講義	
8	認知症性疾患2(レビー小体型認知症)	講義	
9	認知症性疾患3(その他の認知症)	講義	
10	精神作用物質による精神と行動の障害1(アルコールによる障害)	講義	
11	精神作用物質による精神と行動の障害2(薬物依存)、ゲーム障害	講義	
12	てんかん 1	講義	
13	てんかん 2	講義	
14	てんかん 3	講義	
15	定期試験	試験	

使用テキスト	精神医学テキスト 上島他編 南江堂
参考書・資料 等	現代臨床精神医学 大熊著 金原出版
この授業科目を前提とする主な科目	臨床心理学
この授業科目から発展する主な科目	精神医学Ⅱ (理学療法学科)理学療法総論 (作業療法学科)精神の評価Ⅰ・Ⅱ, 精神疾患と障害Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 家族機能の評価, 家族機能の再構築, 作業療法評価学実習, 作業療法治療学実習等
成績評価の方法	1)定期試験 2)その他
その他 受講生への要望等	

授業科目名	精神医学Ⅱ		実務経験講師	○
担当教員名	古郡規雄・他		実務経験	医師
開講年度	2025年度	学 期	後期	
年 次	2年次	授 業 回 数	15回	
単 位 数	2単位	単位時間数	30時間	
授業科目の概要	人間の精神機能および中枢機能の失調、障害について発生機序、症状などを学習し、さらにその診断方法、治療方法を学ぶ。それに加えて、治療者、患者、家族関係のみならず社会対策など多面的な対応を学ぶ。この科目では臨床でよくみられる精神症状と状態像、統合失調症、統合失調型障害と妄想性障害、気分(感情)障害、心因性の精神障害、摂食障害、睡眠障害、成人のパーソナリティおよび行動障害、知的障害と心理的発達の障害、児童・青年期の行動と情緒障害、女性のライフサイクルと心身医学について学ぶ。			
授業科目の到達目標	①精神障害についてその発生機序や症状などを理解できる。 ②精神障害についてその診断方法、治療法を理解できる。 ③治療者、患者、家族関係や社会的対策など、多面的な対応方法を理解できる。			

### 授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	統合失調症1	講義	
2	統合失調症 2	講義	
3	統合失調症 3	講義	
4	統合失調症 4	講義	
5	統合失調型障害と妄想性障害	講義	
6	気分(感情)障害1	講義	
7	気分(感情)障害 2	講義	
8	気分(感情)障害 3	講義	
9	心因性の精神障害1	講義	
10	心因性の精神障害 2	講義	
11	摂食障害、睡眠障害	講義	
12	成人のパーソナリティおよび行動障害	講義	
13	知的障害と心理的発達の障害	講義	
14	児童・青年期の行動と情緒障害、女性のライフサイクルと心身医学	講義	
15	定期試験	試験	

使用テキスト	精神医学テキスト[改訂第5版] 上島他編 南江堂
参考書・資料 等	現代臨床精神医学 大熊著 金原出版
この授業科目を前提とする主な科目	精神医学Ⅰ
この授業科目から発展する主な科目	(理学療法学科)理学療法総論 (作業療法学科)精神の評価Ⅰ・Ⅱ、精神疾患と障害Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、家族機能の評価、家族機能の再構築、作業療法評価学実習、作業療法治療学実習等
成績評価の方法	1)定期試験 2)その他
その他 受講生への要望等	

授業科目名	リハビリテーション医学		実務経験講師	○
担当教員名	秋谷典裕		実務経験	医師
開講年度	2025 年度	学 期	前期	
年 次	2 年次	授業回数	15 回	
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	時代の変遷や人口構成の変化、疾病構造の変化とともにリハビリテーションの内容は多岐にわたり、より複雑となり、それとともにリハビリテーションの果たす役割は一層大きくなっている。 リハビリテーションの対象となる疾患等の知識、治療、リハビリテーションについて学ぶ。			
授業科目の到達目標	①既に修得したリハビリテーション概論の更に理解できる。 ②リハビリテーションが関与する疾患等の基礎知識を修得できる。 ③リハビリテーションを中心とした医療現場の流れや実際を理解できる。			

### 授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	関節拘縮とリハビリテーション、脳卒中のリハビリテーション(急性期)	講義	
2	筋力低下と筋力増強訓練、脳卒中のリハビリテーション(回復期)	講義	
3	運動麻痺と神経筋再教育、パーキンソン症候群	講義	
4	運動学習の理論、多発性硬化症	講義	
5	異常歩行と歩行訓練、神経・筋疾患	講義	
6	失語症と言語聴覚療法、脊髄損傷	講義	
7	失認と失行、外傷性脳損傷	講義	
8	高次脳機能障害、四肢切断	講義	
9	摂食・嚥下障害、運動器リハビリテーション	講義	
10	排泄障害、関節リウマチ	講義	
11	痙縮のコントロール、慢性疼痛	講義	
12	高齢化と介護予防、脳性麻痺	講義	
13	心筋梗塞のリハビリテーション、呼吸器疾患とリハビリテーション	講義	
14	生活習慣病とリハビリテーション	講義	
15	定期試験	試験	

使用テキスト	リハビリテーション総論 椿原彰夫編著 診断と治療社
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ 生理学Ⅰ・Ⅱ 運動学Ⅰ・Ⅱ
この授業科目から発展する主な科目	臨床医学全般, 評価学実習, 臨床実習 (理学療法学科)理学療法症例研究 (作業療法学科)作業療法専門科目全般
成績評価の方法	1)定期試験 2)その他
その他 受講生への要望等	

授業科目名	理学療法評価学Ⅰ		実務経験講師
担当教員名	芳澤 有希子・矢口 剛		実務経験
開講年度	2025 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	理学療法を実施するために、対象者の全体像をとらえることは、とても大切な事である。理学療法評価学では、そのために必要な評価についてⅠからⅣに分けて学ぶ。評価は時として「理学療法は評価に始まり評価に終わる」と言われるほど重要である。講義内容は理学療法評価学実習に繋がる。Ⅰでは総論として評価全体に関することと、各論の形態測定について学ぶ。		
授業科目の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 理学療法評価の意義と目的を説明できる</li> <li>② 叙史的経過記録の 4 項目(S・O・A・P)について説明できる</li> <li>③ 医療面接における質問方法の種類について説明できる</li> <li>④ 四肢長・周径の測定点がいえる</li> <li>⑤ 関節可動域測定(ROM-t)の基本軸・移動軸・参考可動域がいえる</li> <li>⑥ 徒手筋力検査(MMT)の段階づけがいえる</li> <li>⑦ 徒手筋力検査(MMT)の各運動方向における主動筋がいえる</li> </ul>		

### 授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	芳澤	総論(導入): 評価の意義と目的を理解する ・評価とは?(その必要性) ・どのような目的で実施するか	講義:教科書① 板書、質疑応答	
2	芳澤	総論:評価の過程を理解する ・狭義の評価と広義の評価について ・評価の手順(トップダウンとボトムアップ)	講義:教科書① ・配布資料	
3	芳澤	総論:理学療法評価の対象、評価方法の種類 ・評価時期と目標設定 ・評価の尺度について	講義:教科書① ・配布資料	
4	芳澤	総論:記録、問題リストの整理の仕方 ・叙史的経過記録について ・ICF に沿った問題点の提示	講義:教科書① ・配布資料	
5	芳澤	各論:一般的評価事項、問診について ・医療面接について ・質問方法とコミュニケーション	講義:教科書① と配布資料	
6	芳澤	各論:形態測定(四肢長) ・身長、体重、体格指数 ・四肢長の測定点と測定方法	講義:教科書① と配布資料	
7	芳澤	各論:形態測定(周径) ・四肢周径の測定点と測定方法 ・体幹周径の測定点と測定方法	講義:教科書① と配布資料	確認テスト
8	芳澤	各論:関節可動域測定(基礎) ・基本的肢位と基本的運動方向 ・関節可動域制限因子	講義:教科書① と配布資料	確認テスト
9	芳澤	各論:関節可動域測定(表示法) ・測定値の表示のしかた ・測定上の留意事項	講義:教科書①	確認テスト

10	芳澤	各論:関節可動域測定の実際 ・肩甲帯、肩、肘、前腕、手、母指、指 ・基本軸、移動軸、測定肢位および注意点、参考可動域	講義:教科書①	確認テスト
11	芳澤	各論:関節可動域測定の実際 ・股、膝、足、足部、頸部、胸腰部、その他 ・基本軸、移動軸、測定肢位および注意点、参考可動域	講義:教科書①	確認テスト
12	芳澤	各論:関節可動域測定(臨床応用) ・全身的な変形、脊柱の変形 ・上肢の変形、下肢の変形	講義:教科書① ・参考書①	確認テスト
13	矢口	各論:筋力検査について ・徒手筋力検査の段階づけ ・スクリーニングと実施のための用意	講義:教科書②	
14	矢口	各論:筋力検査について ・各運動方向における主動筋 理学療法評価学Ⅰのまとめ	講義:教科書②	
15	芳澤	定期試験		

使用テキスト	① 潮見泰藏、「リハビリテーション基礎評価学」第2版、羊土社 ② 津山直一・中村耕三(訳)、「新・徒手筋力検査法」原著第10版、協同医書出版社
参考書・資料等	① 中村利孝・松野丈夫 監修、「標準整形外科学」第15版、医学書院 ② 田崎義昭・他 著、「ベッドサイドの神経の診かた」、南山堂
この授業科目の前提となる主な科目	①「解剖学Ⅰ・Ⅱ」②「運動学Ⅰ・Ⅱ」③「運動学実習Ⅰ・Ⅱ」④「リハビリテーション概論」 ⑤「理学療法概論」
この授業科目から発展する主な科目	①「理学療法評価学実習Ⅰ・Ⅱ」②「評価実習」③「臨床実習」
成績評価の方法	① 定期試験
その他 受講生への要望等	① 受講中の疑問点は、なるべくその場で質問することを勧めます。もちろん講義終了後でも可。 ② 質問に対しては、間違っても良いので何かしら答えるようにしてください。

授業科目名	理学療法評価学Ⅱ		実務経験講師
担当教員名	矢口 剛 芳澤 有希子		実務経験
開講年度	2025 年度	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	理学療法を実施するために、対象者の全体像をとらえることは、とても大切な事である。理学療法評価学では、そのために必要な評価についてⅠからⅣに分けて学ぶ。評価は時として「理学療法は評価に始まり評価に終わる」と言われるほど重要である。講義内容は理学療法評価学実習に繋がる。Ⅱでは MMT の他、整形外科疾患検査や痛みの評価、知覚検査・反射検査を学ぶ。		
授業科目の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 徒手筋力検査(MMT)の実施方法と代償動作が説明できる</li> <li>② 徒手筋力検査(MMT)の主動筋の神経支配名がわかる</li> <li>④ 整形外科疾患検査の名称・方法・対象疾患がわかる</li> <li>⑤ 痛みの評価における問診事項と検査名・方法がわかる</li> <li>⑥ 各知覚(感覚)の違いを知りそれぞれの検査方法がわかる</li> <li>⑦ 各反射検査の特徴・名称・陽性反応がわかる</li> </ul>		

### 授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	芳澤	各論(導入):理学療法評価学Ⅰの内容確認 ・関節可動域測定の基本軸、移動軸、参考可動域確認 ・徒手筋力検査における各運動方向の主動筋確認	講義:教科書 ①による	理学療法評価学Ⅰの内容を復習しておくこと(小テスト実施)
2	矢口	各論:徒手筋力検査の実際 ・頸部の各運動方向と各段階における検査方法 ・体幹の各運動方向と各段階における検査方法	講義:教科書 ②による	
3	矢口	各論:徒手筋力検査の実際 ・肩甲骨の各運動方向と各段階における検査方法	講義:教科書 ②による	前回の内容について小テストの実施
4	矢口	各論:徒手筋力検査の実際 ・肩関節の各運動方向と各段階における検査方法	講義:教科書 ②による	前回の内容について小テストの実施
5	矢口	各論:徒手筋力検査の実際 ・肘関節、前腕の各運動方向と各段階における検査方法 ・手関節、手指の各運動方向と各段階における検査方法	講義:教科書 ②による	前回の内容について小テストの実施
6	矢口	各論:徒手筋力検査の実際 ・股関節の各運動方向と各段階における検査方法	講義:教科書 ②による	前回の内容について小テストの実施
7	矢口	各論:徒手筋力検査の実際 ・膝関節の各運動方向と各段階における検査方法	講義:教科書 ②による	前回の内容について小テストの実施
8	矢口	各論:徒手筋力検査の実際 ・足関節の各運動方向と各段階における検査方法	講義:教科書 ②による	前回の内容について小テストの実施
9	芳澤	各論:整形外科疾患検査	講義:教科書 ①と参考書①による	
10	芳澤	各論:整形外科疾患検査	講義:教科書 ①と参考書①による	前回の内容について小テストの実施

11	芳澤	各論:痛みの評価 ・痛みを評価する際の間診事項について ・各検査バッテリーについて	講義:教科書 ①による	前回の内容について 小テストの実施
12	芳澤	各論:知覚検査 ・表在感覚と深部感覚の伝導路 ・各検査器具と検査方法	講義:教科書 ①と参考書② による	前回の内容について 小テストの実施
13	芳澤	各論:知覚検査 ・表在感覚と深部感覚の伝導路 ・各検査器具と検査方法	講義:教科書 ①と参考書② による	前回の内容について 小テストの実施
14	芳澤	各論:反射検査 ・表在反射と深部反射、病的反射 ・各検査方法と特徴、陽性反応	講義:教科書 ①と参考書② による	前回の内容について 小テストの実施
15	芳澤	定期試験		

使用テキスト	① 潮見泰藏、「リハビリテーション基礎評価学」第2版、羊土社 ② 津山直一・中村耕三(訳)、「新・徒手筋力検査法」原著第10版、協同医書出版社
参考書・資料等	① 中村利孝・松野丈夫 監修、「標準整形外科学」第15版、医学書院 ② 田崎義昭・他 著、「ベッドサイドの神経の診かた」、南山堂
この授業科目の前提となる主な科目	①「解剖学Ⅰ・Ⅱ」②「運動学Ⅰ・Ⅱ」③「運動学実習Ⅰ・Ⅱ」④「リハビリテーション概論」 ⑤「理学療法概論」
この授業科目から発展する主な科目	①「理学療法評価学実習Ⅰ・Ⅱ」②「評価実習」③「臨床実習」
成績評価の方法	① 定期試験(筆記)
その他 受講生への要望等	① 受講中の疑問点は、なるべくその場で質問することを勧めます。もちろん講義終了後でも可。 ② 質問に対しては、間違っても良いので何かしら答えるようにしてください。

授業科目名	発達の評価Ⅰ、理学療法評価学Ⅲ		実務経験講師	○
担当教員名	①稲毛優希 ①岡田岳		実務経験	作業療法士
開講年度	2025年度	学 期	後期	
年 次	2年次	授業回数	15回	
単 位 数	2単位	単位時間数	30時間	
授業科目の概要	子どもの発達を阻害する発達障がいとはどのようなものなのかを理解するため、その基礎となる子どもの発達過程について理解する。			
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 正常発達について理解し、説明することができる。</li> <li>2. 運動発達や反射、認知・あそびの発達について理解し、これらの相互性について説明することができる。</li> <li>3. 子どもの評価を実施できる。</li> </ol>			

### 授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	岡田	オリエンテーション・発達とは何か？	講義	
2	岡田	反射について① 胎児の発達過程・原始反射と姿勢反応	講義	
3	岡田	反射について② 反射の評価方法	講義	
4	岡田	反射について③ 反射と運動の相互関係	講義	
5	稲毛	運動発達について① マイルストーン/定額・座位の獲得	講義	小テスト①
6	稲毛	運動発達について② 寝返り・四つ這い	講義	
7	稲毛	運動発達について③ 伝い歩き・歩行・2歳以降の運動発達	講義	
8	稲毛	まとめ	講義	小テスト②
9	岡田	認知機能の発達	講義	
10	岡田	心理・社会的機能の発達	講義	
11	稲毛	微細運動／視覚機能	講義	
12	稲毛	遊びの発達	講義・演習	小テスト③
13	稲毛	発達を評価する手段①	講義	
14	稲毛	発達を評価する手段②	講義・演習	
15	稲毛	まとめ	講義	
16	稲毛	定期試験		

使用テキスト	1)写真でみる乳幼児健診の神経学的チェック法【第10版】:前川喜平 他著:南山堂
参考書・資料 等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1)理学療法評価学 改訂第5版. 松澤正 他著:金原出版</li> <li>2)標準作業療法学 作業療法評価学 第3版. 能登真一 他著. 医学書院</li> <li>3)生涯人間発達学. 上田礼子 著:三輪書店</li> </ol>

この授業科目の前提となる主な科目	解剖学、生理学、運動学、心理学、臨床心理学、人間発達学
この授業科目から発展する主な科目	(PT)運動療法学Ⅲ、運動療法学実習Ⅲ (OT)作業療法評価学実習Ⅰ・Ⅱ、発達の評価Ⅱ、発達の構築
成績評価の方法	1)小テスト:30% 2)定期試験:70%
その他 受講生への要望等	子どもの発達を、解剖学的、生理学的、運動学的な側面から学びます。また、正常発達を学んだ上で評価の基礎を学修していきます。この授業を通して、しっかり復習もして下さい。

授業科目名	理学療法評価学実習 I		実務経験講師
担当教員名	芳澤 有希子・矢口剛		実務経験
開講年度	2025 年度	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	30 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	60 時間
授業科目の概要	理学療法を効果的に施行するためには、正確かつ適切な理学療法評価を行なうことが重要である。「理学療法評価学実習 I」では、「理学療法評価学」の継続として位置付け、基本的な評価の流れを学習するとともに、検査・測定技術ならびに記録法を習得する。また、対象者にわかりやすく説明することやリスクマネジメントについても学ぶ。		
授業科目の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 言語的・準言語的・非言語的コミュニケーションを使用し対象者との交流が図れる</li> <li>② わかりやすい説明を基にインフォームドコンセントが可能となる</li> <li>③ 四肢長・周径を正確に測定できる</li> <li>④ 関節可動域を基本軸・移動軸を基に測定できる</li> <li>⑤ 徒手筋力検査の方法に則り筋力の段階づけが可能となる</li> <li>⑥ 対象者の安楽・安全に配慮できる</li> <li>⑦ 検査測定結果を記録に残すことができる</li> </ul>		

### 授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1・2	芳澤	運動器の基礎解剖を学ぶ ・骨、筋、神経の確認 ・各関節構成体を確認し覚える	見学実習	当日までに解剖学の復習をしておく
3・4	芳澤	コミュニケーション、観察・問診 ・言語的、準言語的、非言語的コミュニケーション ・オープンクエスチョン、クローズドクエスチョン	実習：ペアで実施	
5・6	芳澤	観察・問診 ・医療面接の実際	実習：ペアで実施	
7・8	芳澤	四肢長・周径 ・上肢長(上腕長、前腕長)、下肢長(太腿長、下腿長) ・上腕周径、前腕周径、大腿周径、下腿周径	実習：2～3人で実施	実技を行う範囲の小テスト(筆記)
9・10	芳澤	関節可動域測定 ・肩甲帯 ・肩、肘、前腕	実習：2～3人で実施	実技を行う範囲の小テスト(筆記)
11・12	芳澤	関節可動域測定 ・手 ・母指、手指	実習：2～3人で実施	実技を行う範囲の小テスト(筆記)
13・14	芳澤	関節可動域測定 ・股 ・膝、足、足部	実習：2～3人で実施	実技を行う範囲の小テスト(筆記)
15・16	芳澤	関節可動域測定 ・頸部、体幹 ・その他、まとめ	実習：2～3人で実施	実技を行う範囲の小テスト(筆記)
17・18	矢口	徒手筋力検査 ・頸部、体幹 ・肩甲帯(外転および上方回旋、挙上、内転)	実習：2～3人で実施	

19・20	矢口	徒手筋力検査 ・肩甲帯(下制と内転、内転および下方回旋、下制) ・肩(屈曲、外転、伸展、外旋、内旋)	実習:2~3人で実施	
21・22	矢口	徒手筋力検査 ・肩(水平内転、水平外転)・肘(屈曲、伸展) ・前腕(回内、回外)・手・母指と手指	実習:2~3人で実施	
23・24	矢口	徒手筋力検査 ・股(屈曲、伸展、外転、屈曲位からの外転、内転) ・股(外旋、内旋、膝屈曲を伴う屈曲外転外旋)	実習:2~3人で実施	
25・26	矢口	徒手筋力検査 ・膝(屈曲、伸展) ・足(底屈、背屈を伴う内がえし)	実習:2~3人で実施	
27・28	矢口	徒手筋力検査 ・足(内がえし、底屈を伴う外がえし) ・まとめ	実習:2~3人で実施	
29・30	芳澤 矢口	実技試験 ・四肢長、周径、関節可動域測定 ・徒手筋力検査		

使用テキスト	① 潮見泰藏 編、「リハビリテーション基礎評価学」第2版、羊土社 ② 津山直一・中村耕三(訳)、「新・徒手筋力検査法」原著第10版、協同医書出版社
参考書・資料等	① 「理学療法評価学Ⅰ」の医療面接に関する配布資料
この授業科目の前提となる主な科目	①「解剖学Ⅰ・Ⅱ」②「運動学Ⅰ・Ⅱ」③「運動学実習Ⅰ・Ⅱ」④「理学療法評価学Ⅰ・Ⅱ」
この授業科目から発展する主な科目	① 「理学療法評価学実習Ⅱ」②「評価実習」③「臨床実習」
成績評価の方法	① 実技試験
その他 受講生への要望等	① 実習における目のパートナーは学生ではなくて対象者であるという意識で練習すること ② とにかく練習の回数を重ねることが技術習得の近道であることを忘れないように

授業科目名	運動療法学 I		実務経験講師	
担当教員名	大門友加		実務経験	
開講年度	2025 年度	学 期	後期	
年 次	2 年次	授業回数	15 回	
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	物理学、解剖学、運動学などの総復習を兼ねて、運動療法の基本となる知識を運動療法という実務に結びつける。			
授業科目の到達目標	① 物理学、解剖学、運動学を運動療法に応用できる。 ② 運動療法の概念や基本的な理論と実技を理解する。 ③ 運動療法学実習 I に結びつけられる。			

### 授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	確認テスト ・力学の基礎と力学的な見方・筋の収縮 ・導入	講義	
2	動作の理解 ・ベクトルと力のモーメント、 <u>ベクトルの分解</u> と三角関数 ・ <u>力学の基礎</u> と力学的な見方・筋の収縮	講義	
3	動作の理解 ・ <u>ベクトルと力のモーメント</u> 、 <u>ベクトルの分解</u> と三角関数 ・ <u>力学の基礎</u> と力学的な見方・筋の収縮	講義	
4	動作の理解 ・ベクトルと力のモーメント、ベクトルの分解と三角関数 ・ <u>解剖学を基にした運動の理解</u> (運動の分析)	講義	
5	動作の理解 ・ベクトルと力のモーメント、ベクトルの分解と三角関数 ・ <u>解剖学を基にした運動の理解</u> (運動の分析)	講義	
6	動作の理解 ・ベクトルと力のモーメント、ベクトルの分解と三角関数 ・ <u>解剖学を基にした運動の理解</u> (運動の分析)	講義	
7	動作の理解 ・ベクトルと力のモーメント、 <u>ベクトルの分解</u> と三角関数 ・ <u>解剖学を基にした運動の理解</u> (運動の分析)	講義	
8	これまでの復習 解説	講義	確認テスト
9	動作の理解 ・慣性、力(筋緊張と重力)、支持基底面と重力の理解	講義	
10	動作の理解 ・慣性、力(筋緊張と重力)、支持基底面と重力の理解	講義	
11	評価、問題の把握、問題点の抽出、対処方針 ・具体的な問題点の把握	講義	
12	等加速直線運動	講義	
13	放物線運動	講義	

14	総まとめ	質疑応答	
15	定期試験		ペーパー試験

使用テキスト	配布プリント中心
参考書・資料 等	1)中村隆一 他「基礎運動学」医歯薬出版株式会社 2)細田多穂 他編「理学療法ハンドブック第1・2巻」協同医書出版
この授業科目の前提となる主な科目	物理学・解剖学・運動学
この授業科目から発展する主な科目	全ての運動療法学(Ⅱ～)
成績評価の方法	定期試験(筆記) その他、臨床の現場で実習する事をふまえて、学ぶ者としての態度、専門職としての態度も評価の対象とする。
その他 受講生への要望等	これまでの多くの授業の総復習の要素が大きくなるが、決して「復習のための授業」ではない。 この授業を通して、今後、PTの学生としていかに学ぶかを会得してほしい。 運動療法学実習Ⅰと一体の授業である。適宜復習を怠らないようにしてほしい。

授業科目名	運動療法学Ⅱ		実務経験講師
担当教員名	向山 弘一、笠木 広志、芳澤 有希子		実務経験
開講年度	2025 年度	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	<p>理学療法の普遍的な治療手技である運動療法について、基礎的な理論背景を基にその理解を深めるための講義である。何らかの効果を得るためには、訓練の計画段階から因果関係に関する思考ができなくてはならない。その思考のための授業である。</p> <p>実施する運動療法のエビデンスとなる基礎として</p> <p>1)運動と呼吸に関して。  2)運動の学習による変化とその制御について。  3)随意運動のメカニズム</p> <p>以上のテーマで講義をおこなう。</p>		
授業科目の到達目標	<p>1)運動に対する呼吸応答を理解できる。  2)運動療法の基礎的知識として、解剖・生理学との関連性が理解できる。  3)運動療法と運動制御について、その理論の概念が理解できる。  4)運動学習の基礎を理解し、学習による変化の理屈が説明できる。  5)随意運動のメカニズムについて説明ができる。</p>		

### 授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	笠木広志	運動と呼吸 1 エネルギー代謝を学習する。 キーワード:エネルギー代謝、ガス交換比	講義	
2	笠木広志	運動と呼吸 2 呼吸中枢と呼吸調節機構を学習する。 キーワード:呼吸調節中枢、持続性吸息呼吸中枢、リズム調節中枢	講義	
3	笠木広志	運動と呼吸 3 ガス交換:酸素の運搬課程を学習する。 キーワード:酸素カスケード	講義	
4	笠木広志	運動と呼吸 4 血液中の酸素の運搬課程を学習する。 キーワード:ガス交換への影響因子、酸素解離曲線	講義	
5	笠木広志	運動と呼吸 5 呼吸流速と肺気量の関係を学習する。 キーワード:flow-volume 曲線	講義	
6	笠木広志	運動と呼吸 6 定常負荷に対する呼吸応答を学習する。漸増負荷に対する呼吸応答を学習する。 キーワード:定常状態、無酸素性作業閾値、最高酸素摂取量	講義	
7	向山弘一	運動制御と運動学習の概論 理学療法において、運動制御や学習といった概念がどのように利用されるのか、その重要性をもとに基礎となる理論や概念的構造を伝える。 基礎運動学の 10 章「運動学習」とプリント(以降 12 回までの授業すべてで使用) キーワード:学習、運動制御	講義	該当箇所の復習 理解が困難な「用語」 を医学関連辞書で調べる。

8	向山弘一	学習と記憶 学習の構造的分類。学習と記憶がどのような関係にあるか。学習に関わる記憶とはどのように分類されているのか。 キーワード:運動記憶、coordination	講義	該当箇所の復習 理解が困難な「用語」を医学関連辞書で調べる。
9	向山弘一	スキルとパフォーマンス 学習によって変化する「スキル」と「パフォーマンス」とはなにか。それによって変わる運動行動をどのように捉え理解するのか。 キーワード:スキル、パフォーマンス、変数	講義	該当箇所の復習 理解が困難な「用語」を医学関連辞書で調べる。
10	向山弘一	運動技能学習の段階 概念的な学習による段階的変化はどのようなものか、どのようにそれを導くのか。理学療法の視点でそれをどのように捉えるのか。 キーワード:学習段階、練習と訓練、練習の効果	講義	該当箇所の復習 理解が困難な「用語」を医学関連辞書で調べる。
11	向山弘一	運動学習や制御に強く関わる要因 学習に対して影響を与える因子。特に心理的な因子に関してその影響や訓練に対する関係がどの様になっているのか。 キーワード:動機づけ、覚醒レベル、パフォーマンス	講義	該当箇所の復習 理解が困難な「用語」を医学関連辞書で調べる。
12	向山弘一	運動制御のモデル 学習の時間的変化 運動学習(制御)過程のモデルをもとにした理解。また獲得された(される)ものがどのような時間的変化を生じるのか。 キーワード:運動制御モデル、KR、技能の変化	講義	該当箇所の復習 理解が困難な「用語」を医学関連辞書で調べる。 講義における不明な概念や用語について質問する。
13	芳澤有希子	随意運動のメカニズム1 中枢神経損傷の修復あるいは再生過程について理解する。脳の可塑性と理学療法との関係について理解する。	講義	
14	芳澤有希子	随意運動のメカニズム2 末梢神経損傷の修復あるいは再生過程について理解する。	講義	
15	向山弘一	定期試験	筆記試験	

使用テキスト	1)中村隆一 他著:基礎運動学 第6版補訂, 医歯薬出版
参考書・資料 等	1)細田多穂 他編:理学療法ハンドブック 第1・2巻, 協同医書 2)石川齊 他編:図解 理学療法技術ガイド, 文光堂 3)中村隆一 著:臨床運動学, 医歯薬出版 4)吉尾雅春 編:標準理学療法学 専門分野 運動療法学 総論, 医学書院 5)大井淑雄 他編:運動療法, 医歯薬出版 6)山崎勉 編:整形外科理学療法の理論と技術, メジカルビュー 7)富士武史 監:整形外科疾患の理学療法, 金原出版
この授業科目の前提となる主な科目	1)生理学 2)解剖学 3)運動学
この授業科目から発展する主な科目	1)症例研究 2)評価実習 3)臨床実習
成績評価の方法	1)筆記試験 2)授業態度
その他 受講生への要望等	概念理解が困難な学習内容であるが、運動療法の根拠となる概念を多く含むため、用語レベルからの復習を行うこと。また基礎医学の知識が不可欠であるため、各自の理解度によって受講前に十分な基礎医学の復習をして臨むこと。

授業科目名	運動療法学実習 I		実務経験講師	
担当教員名	大門友加		実務経験	
開講年度	2025 年度	学 期	後期	
年 次	2 年次	授業回数	15 回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	運動療法学 I で学ぶ内容を基礎に、物理学、解剖学、運動学などの知識を、実際の運動療法に結びつけるための授業である。			
授業科目の到達目標	① 理学療法における基本的な運動療法を理解して実施できる ② 問題となる現象の原因を推測し、確認することができる ③ 自分に不足している知識や技術を認識し、自ら考察し、自力で解決策までたどり着くことができる(全体の理解度を見ながら、内容や進む速さを調整します。)			

### 授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	基本姿勢	実習	
2	基本姿勢と意義 力の向き、力のモーメント	実習	軟部組織の伸張を生理学的側面で理解できるようにしておく
3	関節の形状、靭帯や筋の走行などを確認しながら、下肢のストレッチとモビライゼーションを行う	実習	筋(下肢)の起始停止を理解しておく
4	関節の形状、靭帯や筋の走行などを確認しながら、下肢のストレッチとモビライゼーションを行う	実習	筋(下肢)の起始停止を理解しておく
5	関節の形状、靭帯や筋の走行などを確認しながら、下肢のストレッチとモビライゼーションを行う	実習	筋(下肢)の起始停止を理解しておく
6	関節の形状、靭帯や筋の走行などを確認しながら、体幹のストレッチとモビライゼーションを行う	実習	筋(体幹)の起始停止を理解しておく
7	関節の形状、靭帯や筋の走行などを確認しながら、体幹のストレッチとモビライゼーションを行う	実習	筋(体幹)の起始停止を理解しておく
8	関節の形状、靭帯や筋の走行などを確認しながら、体幹のストレッチとモビライゼーションを行う	実習	筋(体幹)の起始停止を理解しておく
9	関節の形状、靭帯や筋の走行などを確認しながら、上肢のストレッチとモビライゼーションを行う	実習	筋(上肢)の起始停止を理解しておく
10	関節の形状、靭帯や筋の走行などを確認しながら、上肢のストレッチとモビライゼーションを行う	実習	筋(上肢)の起始停止を理解しておく
11	関節の形状、靭帯や筋の走行などを確認しながら、上肢のストレッチとモビライゼーションを行う	実習	筋(上肢)の起始停止を理解しておく
12	問題点の把握と解決に向けた方針 ・基礎を整理し、方針を導き出す訓練	実習	
13	総まとめ(下肢)	実習	
14	総まとめ(上肢)	実習	
15	定期試験	実技試験 (口頭試問を含む)	

使用テキスト	配布プリント中心
参考書・資料 等	1)中村隆一 他「基礎運動学」医歯薬出版株式会社 2)細田多穂 他編「理学療法ハンドブック第1・2巻」協同医書出版
この授業科目の前提となる主な科目	物理学・解剖学・運動学
この授業科目から発展する主な科目	全ての運動療法学(Ⅱ～)
成績評価の方法	定期試験(実技) その他、臨床の現場で実習する事をふまえて、学ぶ者としての態度、専門職としての態度も評価の対象とする。
その他 受講生への要望等	運動療法学Ⅰと一体の授業である。適宜復習を怠らないようにしてほしい。 運動療法学Ⅰと実習Ⅰは、PT としての実務を学ぶための基本訓練でもあるので、心して学んでほしい。

授業科目名	運動療法学実習Ⅱ		実務経験講師
担当教員名	谷中田修右、芳澤有希子		実務経験
開講年度	2025年度	学 期	後期
年 次	2年次	授業回数	15回
単 位 数	1単位	単位時間数	30時間
授業科目の概要	<p>運動療法の対象として最も頻度が高い「筋」に対するアプローチの基本的な知識と技術について講義と実習をおこなう。両者は同時並行で行われるため実技ができる準備を各自すること。</p> <p>基礎知識としての解剖学、生理学、運動学、物理学を基に説明がされており、配布資料の内容もそれに準じている。各自必要に応じて予習復習を行なうこと。</p>		
授業科目の到達目標	<p>1)運動療法の基礎となる運動の種類について説明できる。</p> <p>2)筋力強化の基礎理論について説明できる。</p> <p>3)運動療法における治療者の動きや必要とする力などの基本的手技を実施できる。</p> <p>4)体力の概念について理解する。</p> <p>5)持久力の概念についてエネルギー供給系の視点から理解する。</p> <p>6)運動により持久力が向上する仕組み、逆に廃用により持久力が低下する仕組みについて理解する。</p>		

### 授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	谷中田修右	運動の種類と治療の関係 1 自発的な運動に関わる力には複数あり、それらによって身体運動は分類される。それらに関する基礎から治療的な理解をするために、講義とそれを踏まえた実習をおこなう。 配布資料あり、授業の進行はそれに基づく。	講義、実習	実技において体験した運動記憶の強化を行うために、各自は復習をおこなうこと。
2	谷中田修右	運動の種類と治療の関係 2 同上。 6週までの共通したキーワード:外力、内力、他動運動、自動介助運動、自動運動、抵抗運動	講義、実習	特に実技は感覚を忘れないうちに繰り返しておくことが重要である。
3	谷中田修右	運動の種類と治療の関係 3 同上	講義、実習	
4	谷中田修右	運動の種類と治療の関係 4 同上	講義、実習	
5	谷中田修右	運動の種類と治療の関係 5 同上	講義、実習	
6	谷中田修右	運動の種類と治療の関係まとめ 実技に関する全体的な復習と、実施上の「コツ」に関する復習。	講義、実習	
7	谷中田修右	筋力強化の基本的な考え方とその実践1 筋収縮様式は複数あり、その基本的なメカニズムと訓練への応用は密接に関わっている。訓練に焦点を当てた基礎的知識の見直しを含め、講義を行う。またそれらを踏まえた実習もおこなう。 キーワード:等尺性収縮、等張性収縮、等速性収縮	講義、実習	
8	谷中田修右	筋力強化の基本的な考え方とその実践2 同上	講義、実習	

9	谷中田修右	筋力強化の基本的な考え方とその実践3 同上	講義、実習	
10	谷中田修右	筋力強化に関する力学的・生理学的特性を踏まえた実践 1 筋力増強には解剖学・生理学・運動学を踏まえた統合的知識がまとまって理解できていることが重要である。生理学的側面と力学的な側面から筋の特性を把握したうえで、運動療法との関連性について説明をする。 キーワード:真の筋力、実行筋力、長さ-張力関係、力学的モデル、モーメント、ベクトル。	講義、実習	
11	谷中田修右	筋力強化に関する力学的・生理学的特性を踏まえた実践 2 同上	講義、実習	
12	谷中田修右	筋力増強訓練に関する全体的まとめ 今までの講義において疑問点などをまとめる。実習においても同様。	講義、実習	
13	芳澤有希子	筋持久力 運動機能の体系的な観点である持久力から、特に筋持久力に焦点を当て講義と実習をおこなう。	講義、実習	
14	芳澤有希子	全身持久力 運動機能の体系的な観点である持久力から、特に全身持久力に焦点を当て講義と実習をおこなう。	講義、実習	
15	谷中田修右	定期試験	筆記試験	

使用テキスト	1)中村隆一 他著:基礎運動学 第6版補訂, 医歯薬出版 2)石川齊 他編:図解 理学療法技術ガイド 第2版, 文光堂
参考書・資料 等	1)吉尾雅春 編:標準理学療法学 専門分野 運動療法学 総論 第4版, 医学書院 2)大井淑雄 他編:運動療法, 医歯薬出版 3)富士武史 監:整形外科疾患の理学療法, 金原出版 4)山崎勉 編:整形外科理学療法の理論と技術, メジカルビュー 5)中村隆一 他著臨床運動学, 医歯薬出版 6)細田多穂 他編:理学療法ハンドブック 第1・2巻, 協同医書
この授業科目を前提とする主な科目	1)解剖学 2)生理学 3)運動学
この授業科目から発展する主な科目	1)臨床運動学 2)理学療法症例研究 3)評価実習 4)臨床実習
成績評価の方法	1)筆記試験 2)授業態度
その他 受講生への要望等	実習は体験した感覚記憶を保持できるかどうか、自己修正できるかどうか为上達のために必要となる。試行錯誤をしながら修正をできるようになるために、基礎的知識に関しては十分に学習を行うこと。わからないまま、ただ触るといったことがないように臨むこと。

授業科目名	物理療法学		実務経験講師
担当教員名	向山弘一		実務経験
開講年度	2025 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	物理的なエネルギーは、人間が行なう徒手的な運動療法よりも遥かに大きくそれ故に理学療法士が直接的に治療効果を出すことができる技術である。そのため利用する物理的エネルギーの基礎的な理解を必要とするためこの授業では、物理学の基礎的知識から授業が行われる。またそれらが生体に及ぼす影響を理解し、効果的な治療が行える知識を習得する。実技との兼ね合いでこの講義は2回ずつ行われる。各講義におけるキーワードは講義タイトルと同じ。		
授業科目の到達目標	1)物理療法の理論と効果、適応と禁忌を理解する。 2)各種物理療法を実践するために必要な知識を修得する。 3)基礎となる物理学を理解する。 4)エネルギーが生体に及ぼす影響を理解する。 5)訓練を実施するために適切な用語を用いた説明ができる。		

### 授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	物理療法総論 物理療法が理学療法においてどのような位置づけにあるのか物理学の基礎的知識も含め講義する。 配布資料に基づき説明をする。	講義	提示課題 「物理療法のイントロダクションに関する 10 の質問」を授業後の復習として行う。
2	電気診断法(SD カーブ) 電気に対する生体の反応を利用した診断法の原理とその方法、判断について講義する。 配布資料に基づき説明をする。	講義	提示課題 「電気刺激療法に関する 10 の質問」を授業後の復習として行う。
3	電気刺激療法(TES・TENS・干渉波療法) 電氣的エネルギーの利用による治療法について原理とその方法、判断について講義する。 配布資料に基づき説明をする。	講義	
4	電気刺激療法(TES・TENS・干渉波療法) 同上	講義	提示課題 「電気刺激療法(各論)に関する 10 の質問」を授業後の復習として行う。
5	温熱療法総論(熱力学、生理学的効果、適応、禁忌) 熱エネルギーの利用による治療法について原理とその方法、判断について講義する。 配布資料に基づき説明をする。	講義	
6	温熱療法総論 同上	講義	提示課題 「温熱療法(総論)に関する 10 の質問」を授業後の復習として行う。
7	温熱療法各論(Hot Pack・Paraffin Bath・Micro Wave・USD) 各種温熱療法の特徴や適応などについて細かく説明を行う。 配布資料に基づき説明をする。	講義	

8	温熱療法各論 同上	講義	
9	温熱療法各論 同上	講義	提示課題 「温熱療法(各論)に関する10の質問」を授業後の復習として行う。
10	光線療法(赤外線療法・紫外線療法・レーザー療法) 電磁波等を利用した治療法について原理とその方法、判断について講義する。 配布資料に基づき説明をする。	講義	提示課題 「光線療法に関する10の質問」を授業後の復習として行う。
11	牽引療法(頸椎牽引・腰椎牽引) 力学的エネルギーを用いた治療法について原理とその方法、判断について講義する。 配布資料に基づき説明をする。	講義	提示課題 「牽引療法に関する10の質問」を授業後の復習として行う。
12	バイオフィードバック療法 生体の反応を各種の機械的な変換により認識できる状態にした上で行われる治療法について原理とその方法、判断について講義する。 配布資料に基づき説明をする。	講義	
13	水治療法(渦流浴・気泡浴・ハーバードタンク) 水の特性を利用した治療法について原理とその方法、判断について講義する。 配布資料に基づき説明をする。	講義	
14	寒冷療法 寒冷刺激に対する生体の反応を用いた治療法について原理とその方法、判断について講義する。 配布資料に基づき説明をする。	講義	提示課題 「BF・水治・寒冷に関する10の質問」を授業後の復習として行う。
15	定期試験	筆記試験	

使用テキスト	1)石川齊 他編:図解 理学療法技術ガイド, 文光堂
参考書・資料 等	1)M.H. Cameron 編著:EBM 物理療法, 医歯薬出版 2)網本 和 編:標準理学療法学 専門分野 物理療法学, 医学書院 3)嶋田智明 他著:物理療法マニュアル, 医歯薬出版 4)細田多穂 編:シンプル理学療法シリーズ 物理療法学テキスト, 南江堂 5)千住秀明 監修:理学療法テキストIX 物理療法, 神陵文庫 6)細田多穂 他編:理学療法ハンドブック 第2巻, 協同医書
この授業科目の前提となる主な科目	1)リハビリテーション概論 2)理学療法概論
この授業科目から発展する主な科目	1)評価実習 2)臨床実習
成績評価の方法	1)定期試験 2)授業態度
その他 受講生への要望等	高校までに習った化学や科学、物理の知識が必要にある講義である。理科が得意であった学生ならば特に難しい内容ではないが、そうでなかった場合は単語レベルから理解が難しいと思われる。そのため授業内でわからなかった言葉や概念に関してはその日のうちに復習をし、不明点は質問をすることを求める。一夜漬けは不可能である。

授業科目名	物理療法学実習		実務経験講師
担当教員名	向山弘一		実務経験
開講年度	2025 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	<p>物理的なエネルギーは、人間が行なう徒手的な運動療法よりも遥かに大きくそれ故に理学療法士が直接的に治療効果を出すことができる技術である。そのため利用する物理的エネルギーはときに深刻な問題を生体に与える可能性があり、実践によるトレーニングは非常に重要である。自ら体験することで得る経験知を理解に活かすため、この授業は物理療法学の講義に対して後追いで行われる。またその実技経験を科学的に把握するために、各自生体の変化に対してどのようなパラメータを観察するのかを決めて、その変化をまとめるレポート課題を課す。各講義におけるキーワードは講義タイトルと同じ。</p>		
授業科目の到達目標	<p>1)物理療法学で修得した知識を基に各種物理療法機器の操作が正しくできる。  2)物理療法の生理的効果を自らの身体で体験し確認する。  3)実習を通じて得た知識をもとに、適切な実施と説明が同時にできる。  4)治療による生体反応の変化の観察ができ、情報が収集できる。  5)その変化に対する説明ができる。</p>		

### 授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	温熱療法・水治療法・電気診断法 基本的な機械の操作説明は全員に対して行い、実技は各自が任意のグループ単位で行う。まず体験を優先し操作や感覚を学習した後に、課題となる生体反応の観察を行う。	実習	複数の物理療法機器の体験を連続的に行なうため、各自は物理療法の配布資料を持参し、課題の記録を取れるよう準備する。
2	(Hot Pack・Micro Wave・Paraffin Bath・USD・Whirl Pool・chronaxie) 同上	実習	同上
3	温熱療法・水治療法・電気診断法 同上	実習	同上
4	(Hot Pack・Micro Wave・Paraffin Bath・USD・Whirl Pool・chronaxie) 同上	実習	同上
5	電気刺激療法・温熱療法・光線療法・その他 同上	実習	同上
6	(TES・TENS・干渉波・chronaxie・USD・赤外線・紫外線・レーザー療法) 同上	実習	同上
7	電気刺激療法・温熱療法・光線療法・その他 同上	実習	同上
8	(TES・TENS・干渉波・chronaxie・USD・赤外線・紫外線・レーザー療法) 同上	実習	同上
9	電気刺激療法・Biofeedback 療法・その他 同上	実習	同上

10	電気刺激療法・Biofeedback療法・その他 同上	実習	同上
11	牽引療法・電気刺激療法・その他 同上	実習	同上
12	牽引療法・電気刺激療法・その他 同上	実習	同上
13	寒冷療法・その他 同上	実習	同上
14	寒冷療法・その他 同上	実習	同上
15	まとめ 体験した物理療法の記録をまとめ、実験的手法による結果に対して考察を加えた内容をまとめる。まとめたものはレポートとして提出	実習	

使用テキスト	1)石川齊 他編:図解 理学療法技術ガイド, 文光堂
参考書・資料 等	1)M.H. Cameron 編著:EBM 物理療法, 医歯薬出版 2)網本 和 編:標準理学療法学 専門分野 物理療法学, 医学書院 3)嶋田智明 他著:物理療法マニュアル, 医歯薬出版 4)細田多穂 編:シンプル理学療法シリーズ 物理療法学テキスト, 南江堂 5)千住秀明 監修:理学療法テキストIX 物理療法, 神陵文庫 6)細田多穂 他編:理学療法ハンドブック 第2巻, 協同医書
この授業科目の前提となる主な科目	1)リハビリテーション概論 2)理学療法概論
この授業科目から発展する主な科目	1)評価実習 2)臨床実習
成績評価の方法	1)レポート 2)授業態度
その他 受講生への要望等	利用するエネルギーが大きいため、不注意により事故が起こる可能性がある。そのため実施に際しては緊張感を持つこと、ふざけた行為により危険が予見される事態に対しては中断・ときに退出を命じる。グループ単位で各機器の設置場所での実習となるため担当教員の目が届かない場所においても、各自が責任を持ち操作と管理をすること。結果に基づく考察を行うため、結果の記録を十分に行うこと。

授業科目名	言語聴覚療法		実務経験講師	○
担当教員名	古渡雅樹・根岸和希		実務経験	言語聴覚士
開講年度	2025年度	学 期	前期	
年 次	2年次	授業回数	15回	
単 位 数	2単位	単位時間数	30時間	
授業科目の概要	言語聴覚療法の対象となる様々な障害についてそのしくみ、特徴を把握し対応を学ぶ。聴覚障害・構音障害の症状を学ぶ。失語症に関与する脳の機能を理解し症状を学びその評価、対応を知る。摂食嚥下のメカニズムを知り、嚥下障害の症状を学び対応やリハビリテーションを学ぶ。失語症以外の高次脳機能障害の症状、評価、対応を学ぶ。			
授業科目の到達目標	①言語聴覚療法の基礎が説明できる。 ②理学療法士・作業療法士国家試験に対処できる言語聴覚療法の知識が いえる。			

### 授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	古渡	ガイダンス、総論	講義	
2	古渡	総論2	講義	
3	根岸	聴覚障害	講義	
4	根岸	聴覚障害 2	講義	
5	古渡	構音障害	講義	
6	古渡	構音障害 2	講義	
7	根岸	失語症	講義	
8	根岸	失語症 2	講義	
9	古渡	高次脳機能障害	講義	
10	古渡	高次脳機能障害 2	講義	
11	根岸	嚥下障害	講義	
12	根岸	嚥下障害 2	講義	
13	古渡	言語発達遅滞	講義	
14	古渡	問題演習	講義	
15	古渡・根岸	定期試験	試験	

使用テキスト	絵でわかる言語障害 第2版 毛束真知子著 学研
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ, 生理学Ⅰ・Ⅱ
この授業科目から発展する主な科目	評価実習, 臨床実習 (理学療法学科)理学療法症例研究, 理学療法総論 (作業療法学科)作業療法評価学に関する全ての科目、作業療法治療学に関する全ての科目
成績評価の方法	1)定期試験 2)その他
その他 受講生への要望等	